

中条郷会誌

第 12 号

2024 年 3 月 31 日発行

～ 悠久・胎内 明日への架け橋 ～

中条郷会事務局



9 月「飯豊山脈頼母木小屋」

目次

- ・誇れるふるさと胎内市であり続けるために……………胎内市副市長 高橋 晃
- ・アメリカンフットボールで幸福で豊かな 10 年後の未来を創る。
……………株式会社 DEERS FOOTBALL CLUB 代表取締役 高橋 孝輔
- ・懐かしい故郷の思い出 ……………弁護士法人 一新総合法律事務所 弁護士 薄田 真司
- ・中条郷会役員会の動向……………
- ・編集後記……………中条郷会幹事 石井 隆

誇れるふるさと胎内市であり続けるために

胎内市副市長 高橋 晃

平成17年9月に旧中条町と旧黒川村が合併した「胎内市」も誕生から18年が経過しました。その間さまざまな観光施設や農業施設を取捨選択しながら指定管理制度の活用や施設の民間への貸し出しなど行うとともに学校や保育施設の統合、或いは民間移行を推進することで行政のスリム化を図る一方で、総合体育館の建設や中条駅の橋上化と自由通路の整備を行うとともに中核工業団地への航空機産業などの工場誘致、既存施設であるロイヤル胎内パークホテルや胎内スキー場を活用した観光振興、水田の圃場整備、中山間地域の活性化のための地域づくり協力隊の派遣を行うなどして「自然が活きる、人が輝く、交流のまち」をめざした行政運営がなされてまいりました。しかしながら全国の多くの自治体と同様に人口減少、高齢化という課題は避けては通れないものとなっています。

そのような中で、持続可能な胎内市を目指して現在実施中のプロジェクトをいくつか紹介いたします。

一つ目は、教育環境を整える未来への投資として、創立151年を迎えた中条小学校の老朽化が著しかった校舎を令和7年7月の供用開始をめざして改築工事が本格化しております。校舎建設の基本方針として、可変性の高いオープンな空間構成で自然エネルギーを活用した災害に強い校舎、歴史や豊かな環境を活かして景観に馴染み地域に親しまれる学校を目指しております。

次に、近年激甚化している災害に対して備えて防災行政無線の更新事業に取り組んでおります。当市の防災行政無線は導入から14年経過して老朽化しているため、令和7年7月供用開始に向けて通信システムの高性能化、各世帯の受信機器の更新、外部スピーカーの増設に取り組んでいます。また、防災アプリの導入により防災行政無線の放送内容について、自動で音声と文字で伝達されることにより聞き逃しても、また、市外にいても迅速な情報伝達が可能になり、災害発生時に被害を最小限にすることにつなげたいと考えております。

そして今後の胎内市発展に大きな効果が期待できるのが「洋上風力発電」です。持続可能な社会の構築のため二酸化炭素の排質量を最小限にしていくことが人類にとって喫緊の課題となっております。洋上風力発電は再生可能エネルギーの一翼を担っていくと考えられており、国においても洋上風力発電の推進に政策の舵を切っているところです。当市の沿岸海域は風況に恵まれ洋上風力発電に適していることから再エネ海域利用法に基づき令和4年9月に村上市胎内市沖として促進区域として指定され、同年12月から事業者を募集、昨年12月に事業者（RWE、三井物産、大阪ガスの3者によるコンソーシアム）が決定したところです。この事業は数千億円規模の事業になるといわれており、また、各種メンテナンスや送電施設、変電施設など関連事業の裾野が大変広いといわれております。このことは、胎内市地域活性化の千載一遇の機会と捉えることができ、今後決定した事業者と地域貢献策などの協議を重ねるとともに地域の事業者がこの事業に参画できるような道筋を考えていく必要があると思います。また、経済的な側面だけでなく、脱炭素社会の構築、再生可能エネルギーの供給地であることが胎内市民にとって誇りに繋がることを期待しております。

結びに今後も市民の皆様との対話を大切にしながら持続的な発展をめざし、胎内市民と胎内市出身の皆様が誇れる「ふるさと」であり続けてまいりたいと思います。

アメリカンフットボールで幸福で豊かな10年後の未来を創る。

株式会社 DEERS FOOTBALL CLUB

代表取締役 高橋 孝輔

胎内 DEERS（ディアーズ）は2022年7月に前身から名称変更して発足し、もうすぐ丸2年が経ちます。現在も練習拠点は東京都調布市ですが、胎内市への10年での移転を目指し、地域での活動を少しずつ深めて参りました。昨年は残念ながら荒天の下となりましたが、念願のホームゲーム開催を実現したほか、胎内市との包括連携協定、各種お祭りへの参加、小川選手の地域おこし協力隊への着任など地域への活動をより深めることができました。お会いする方お一人お一人に胎内 DEERS を知って頂き、触れ合いの機会を重ねるにつれ、お陰様で応援の声が着実に大きくなってきているのを感じます。今年も胎内市でホームゲームを開催する予定ですので、是非市外に在住の方も、帰省に合わせお越し頂けると嬉しいです。昨年の試合ではアメリカンフットボールファンや関係者も多く県外から訪れました。このように私達は活動を通じて、市内での交流やスポーツ振興、市外からの来訪、出身者の帰省など、胎内市が盛り上がることを目指し「アメリカンフットボールを通じて幸福で豊かな10年後の未来を創る。」を理念として活動しております。

アメリカンフットボールは日本においては認知度が低く、ルールもご存じない方がほとんどかと思えます。確かにルールは少し複雑な部分もありますが、大枠は非常にシンプルです。ボールの形と、奥まで進めば得点、という部分ではラグビーに似ています。一方で、タックルで倒れると一度プレーは止まり、ボールを置き直して両チーム作戦会議し、40秒以内に次のプレーを再開する、ということを繰り返す部分では野球のような1プレー1プレーの駆け引きがありラグビーとは大きく異なります。激しいぶつかり合いのイメージがあるかと思いますが、一方で作戦会議時間が非常に多くあり、高度な戦略性や組織性に富んだ競技で、試合のためにチームは100種類以上の作戦を理解して遂行する必要があります。ぶつかり合いの迫力、空中でのパスの競り合い、作戦の駆け引きの戦略性など色々な楽しみにてあえるスポーツです。また、両チームの人数の多さも初めて観られる方には驚かれます。フィールド上にはお互い11名ずつ出ていますが、全体で65名ずついて、攻撃や守備などシチュエーションに応じて異なる選手が出場します。選手以外のコーチやマネージャー、トレーナー、チアリーダーなども含めお互い100名規模の組織で戦うスポーツです。

ホームゲームでは試合以外にも楽しんで頂ける企画を準備するご予定です。アメリカンフットボールを通じて胎内市の魅力を広く発信し、持続可能なまちづくりへ貢献するために、取り組んで参ります。是非、応援していただけると嬉しいです。

懐かしい故郷の思い出

弁護士法人 一新総合法律事務所
弁護士 薄田 真司

32歳です。新潟市中央区で弁護士をやっています。

平成3年に北蒲原郡中条町大字江尻に出生し、新発田高校在学時まで実家で過ごしました。その後、金沢大学法学類、神戸大学法科大学院に進学しました。司法試験に合格した後、新潟に戻って法律事務所に勤め、現在6年目を迎えています。

私は3人兄弟の一番上の長男で、実家では、父母、祖父母、曾祖母の合計8人家族で同居していました。

特に思い出に残っているのは、父の肝いりで、兄弟みんなが稽古に取り組んだ柔道。3人とも幼少期から父に連れられ、中条町柔道スポーツ少年団の先生方・諸先輩方と稽古に打ち込みました。柔道を通じ、他者を敬う心や礼節の大切さを教わりました。お盆休みには、父と3兄弟で武道館で土用稽古をしたこともあります。

柔道は高校まで続けました。芽は出なかったのですが、高校柔道部所属時には「主将」を務めました。というのも、私の学年で柔道部員は私一人だけだったのです。途中、挫折もしました。1年生のころ、乱取稽古中に払腰を掛けられて巻き込まれた後、右足の膝関節が曲がらなくなりました。MRIをとったところ半月板断裂とのことで、外科手術をし、3か月間の療養生活を送りました。このため、2年生時の春の大会は断念せざるを得ませんでした。

挫折を乗り越え、顧問の先生、先輩・後輩の皆様の支えがあり、最後までやりとげることができました。全国の強豪チームと試合形式で稽古した天理大学・群馬での10日間の遠征合宿や目標であった県大会ベスト8に進出できたことは最高の経験です。これらを超える怖いものなどありません。

顧問の先生は、まさに熱血漢でした。柔道の指導を通じ、人としての生き方・考え方を教えてくださいました。よくおっしゃっていたのは「何事も考えること。漫然とやらないこと。」。今でも夢に出てきてご指導を賜ります。

両親は、柔道の試合が終わると、私たち3兄弟を外食に連れて行ってくれました。敢闘賞のご褒美はお腹いっぱい回転寿司。栄助寿司やすし誠のテーブル席で、自分たちの顔が見えなくなるほどお寿司の皿を積み重ねました。兄弟3人で「最後に大トロをください。」と店員さんに元気よく注文したときには、両親は苦笑いでした。

現在、兄弟3人は、それぞれ結婚し、家庭を築いています。

私の子どものころからの夢は、弁護士になることと結婚して温かい家庭を築くことでした。苦悩した婚活の末、奇跡的に最愛の妻に巡り合うことができました。今年の6月に待望の第1子が生まれます。

両親は、親族の誕生日等に合わせ、実家で食事会を催します。

前日から腕によりをかけて手料理をつくり、私たち3兄弟家族にふるまってくれます。私たち3兄弟もお礼の意味を込めて、お土産、誕生日ケーキ(30cm10号サイズとなると大きいですね)、花束等を持参します。

元気いっぱいの姪を中心に、みんなが温まる素敵な食事会になります。

私たち家族をここまで育ててくれた故郷に感謝しています。

中条郷会役員会の動向

* 2023年6月～2024年1月の期間に3回実施

1回目

◆日時 2023年6月8日(木)

◆討議、確認、決定事項

収支報告について

中条郷会の収支について出席役員全員で会計内容に誤りがないことを確認した

2回目

◆日時 2023年9月13日(水)

◆討議、確認、決定事項

(1) 2024年中条郷会新年総会の日程と開催場所について検討を行い、下記内容で決定した

①開催日時

2024年3月21日(木)午後6時30分

②開催場所

新潟グランドホテル・悠久の間(3F)

* 飲酒有りで開催(新型コロナウイルス分類が五類に移行)

(2) 中条郷会会誌(12号)の打ち合わせを実施し原稿寄稿者、掲載内容等を検討した

3回目

◆日時 2024年1月12日(金)

◆討議、確認、決定事項

(1) 新年総会開催にむけた最終調整

案内状文面内容と発送時期の確認

胎内市広報誌への事前広報依頼

余興・出店店舗の確認

PRビデオの上映

等

(2) 会報誌の発行について

会員各位へ胎内市の情報を提供するため会報誌12号を、胎内市ホームページへ掲載

編集後記

3年以上も私たちの行動を制限してきた新型コロナウイルスも昨年5月から5類に移行したことで、新年総会もようやく制限なしで開催できることとなり、コロナ前の日常がもどりつつあるのを感じます。しかしまだ「毎年恒例の」が少し難しいご時世であるのも事実です。

でも、こんな時こそいつもと違った楽しみを発掘するチャンス。

皆様もいつもとはちょっと違った楽しみを見つけてはいかがでしょうか。

さて、中条郷会誌も今回で第12号になります。

今回、ご多忙中にもかかわらず原稿を寄稿して頂きました方々には本当に感謝を致します。

この場を借りて感謝とお礼を申し上げます。

今後も会員の皆様に胎内市の魅力、情報を発信紹介できますよう会誌の内容充実を図ってまいる所存でありますので、どうか会員の皆様にも是非情報提供のご協力をお願いいたします。

会員皆様の益々のご健勝とご繁栄をお祈り申し上げます。

≪情報提供先・寄稿先は中条郷会事務局(胎内市商工観光課)≫

・住所 〒 969-3693 新潟県胎内市新和町2番10号

・TEL 0254-43-6111 ・FAX 0254-43-7392 中条郷会幹事 石井 隆